

語り続けよ！

シリーズ～福音となったイエス～

2026・7・12

使徒言行録18:1～4

その後、パウロはアテネを去ってコリントへ行った。ここで、ポントス州出身のアキラというユダヤ人とその妻プリスキラに出会った。クラウディウス帝が全ユダヤ人をローマから退去させるようにと命令したので、最近イタリアから来たのである。パウロはこの二人を訪ね、職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人の説得に努めていた。



フィリピ

テサロニケ

ベレア

コリント

アテネ



Gulf of Corinth

CORINTH

MEGA-

Isthmus of Corinth

RIS

from 1858

Diolkos 1)

Hexamilion 2)

Corinth
until 1858

Acrocorinth

Saronic Gulf

CORINTH

Peloponnese

PHLEIUS

ARGOLIS

Isthmus of Corinth

0 km 10 km 20 km

1) Posidium

2) Canal of Corinth

コリント地峡(1893年完成)

コリントにやってきたパウロ

- アテネからコリントに来たパウロ

- コリントは二つの湾に挟まれた交通の要衝で、商工業が発達した町だった

- 疲れ果てていたパウロ

- 「そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。」コリントー2:3

- アキラとプリスキラに出会う

- クラウディウス帝の命令でローマを退去

- 紀元49年反乱を起こしたユダヤ人らを追放した

- 「ポントス州出身」：パウロと同じディアスポラ

- どのような経緯でイエスの弟子となったかは不明

同労者と共に

- 「テント造り」をしながら

- 「パウロはこの二人を訪ね、職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。」

- テントは当時の旅には必需品。特に商人や軍人にとっては大切なアイテムだった

- ファリサイ派は在野の教師だったので職を持っていた

- 彼らに励まされて宣教

- 「安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人の説得に努めていた。」

使徒言行録18:5～11

シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアはイエスであると力強く証しした。しかし、彼らが反抗し、口汚くののしったので、パウロは服の塵を振り払って言った。「あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかけ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。」パウロはそこを去り、神をあがめるティティオ・ユストという人の家に移った。彼の家は会堂の隣にあった。

18:6～11

会堂長のクリストは、一家をあげて主を信じるようになった。また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」パウロは一年六か月の間ここにとどまって、人々に神の言葉を教えた。

ユダヤ人たちの反抗

- 援軍を得て更に宣教に力が入る
 - シラスとテモテがマケドニア州からやってくる
 - 「パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対して**メシアはイエスであると力強く証した。**」
- ユダヤ人たちは受け入れず
 - 「しかし、彼らが反抗し、口汚くののしった」
- 異邦人に向かう、と宣言
 - パウロは服の塵を振り払って言った。「あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかけ。わたしには責任がない。**今後、わたしは異邦人の方へ行く。**」

異邦人に向かうと言いながら

- パウロが引っ越した先は

- 「パウロはそこを去り、神をあがめる（改宗者）ティティオ・ユストという人の家に移った。彼の家は**会堂の隣**にあった。」

- 「**異邦人の方へ行く**」と言ったのに、**会堂の隣に！**

- 救われた会堂長

- 「**会堂長のクリスポは、一家をあげて主を信じるようになった**。また、コリントの多くの人々も、パウロの言葉を聞いて信じ、洗礼を受けた。」

- 地域のユダヤ人の代表でもある「会堂長」が救われたもちろんコリントの異邦人たちも

「ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。『恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いるからだ。』」

- 「**恐れるな**」

- パウロだって恐れていた

- 「**語り続けよ。黙っているな**」

- 「**わたしがあなたと共にいる**」

- これ以上心強い励ましの言葉はない

- 「この町には、**わたしの民が大勢いる**」

- おそらくパウロにとっては意外だったのではないか

「ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。『恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなたを襲って危害を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢いる。』」

パウロは1年6か月の間ここにとどまって人々に神の言葉を教えた。

•「**恐れるな**

•パウロは

•「**語り続け**

•「**わたしが**

•これ以上心強い励ましの言葉はない

•「この町には、**わたしの民が大勢いる**」

•おそらくパウロにとっては意外だったのではないか

語り続けよ！

- 疲れ切っていたパウロに備えられた助け
 - 同じ地域の出身で同じ職業の夫婦
 - 彼らの存在にどれだけパウロが励まされたか！
- 会堂長の救い
 - ユダヤ人の反対にもめげず会堂の隣に引っ越す
 - ユダヤ人の代表である会堂長一家が救われる
- 幻の中での主の言葉
 - 主はパウロの気持ちを知っておられた
 - 主はパウロの知らないことを知っておられた